

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オープン当初より、施設の理念をつくっている。	「人間らしく人生の最後まで生き活きと、やすらぎ 安心癒し」を理念とし、管理者と職員の間で日常的によく話し合い、共有化を図っている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの共有スペースに理念を明示し、毎朝申し送り時に読みあげ、業務に取り組んでいる。	○ 理念に基づき、利用者一人ひとりに合ったケアを心がけている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関入り口に掲示し、入居時・面会時等に説明し理解を得ている。地域の老人会、婦人会、農協、コミュニティセンターなどにホーム便りの配布などを行い、理解していただけるよう取り組んでいる。	継続。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設周りの散歩や買い物などの外出を多く持つことによって、触れ合う機会をつくっている。常の声かけを心がけ、現在では近所の方から施設に来ていただけるようになっている。	○ 本人の希望やプライバシーに配慮し、支援していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通して、地域の行事等への参加を行い、交流している。	○ 町内会の文化祭・夏祭り等の参加をすることにより、施設を知っていただき、施設行事にも来ていただけるようになった。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会、コミュニティセンター等にホーム便りを配布し、ホームの説明や方針啓発に取り組んでいる。		利用者の支援はできているが、地域の高齢者の方についての話し合いがあまりできていないため、今後は支援方法や職員で何ができるかを話し、取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の過程を通じて質の確保、向上に向けて取り組んでいるが、まだまだ不十分である。	○	職員一人ひとりが自覚を持ち、日々の介護に取り入れ、活用していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、その中で利用者の方へのサービス・意見等を聞き、十分に取り入れ、その都度報告している。		2か月に1回会議を行い、意見交換などをして、職員会議で話し合い、質の向上に活かしている。また、会議メンバーの方々の協力を得て、利用者や家族の方とのふれあいの場(祭り)もつくっている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員自ら、市町の行事(夏祭り・文化祭等)に参加している。	○	できる限り参加し、交流を深め、サービスの向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の必要性のある利用者とその関係者との話し合いは、活用できている。		継続。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を発足しており、定期的に職員間で勉強会を行ったり、研修の受講をしている。また、この内容を記録し、職員全員が周知できるようにしている。		委員会開催後、研修後については、月1回の全体カンファレンスにて報告し、未参加者には口頭、記録等にて伝達し、職員全員が理解し、確認印を押している。確認印については、管理者がその都度確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、全ての内容に関する説明を十分に行い、納得していただいている。		継続。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に意見箱を設置し、対応している。また、定期的に家族からの希望・要望を聞き、運営に反映させている。		継続。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の手紙により、状態報告を欠かさず行っており、また、面会時には、近況報告を必ず行っている。		継続。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に意見箱を設置し、面会時には家族からの希望・意見を直接聞いたり、メモでもらうようにしている。		今後も、家族からの要望や気がかりなことを引き出す働きかけをし、得た情報を職員間で共有し、さらに信頼関係を強いものにしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議・ユニットミーティングなどで、各職員から意見を聞く機会を設けている。		継続。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	できる限り、対応できている。		継続。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動をなくし、家族的な雰囲気を利用者が安心して生活していけるよう配慮している。また、利用者には各担当の職員をつけており、その都度対応できるよう配慮している。	○	できる限りは対応できているが、やむを得ない場合は、非常勤にて異動を考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて計画的に参加し、技術や知識を身につけ、定期的な会議で伝達し共有している。		すでに取り組めており、職員の質の向上を図ることができ、今後も全職員が実施できるよう考慮していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流は、現段階では十分ではない。	○	施設便りなどの配布をして、他施設とのコミュニケーションを取り、意見の交換の場を増やして、サービスの質の向上につなげたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上の悩みや問題は、定期的な面談や管理者からの報告等で把握しており、また、休憩時間の利用方法も各自取れるようにしている。		継続。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	できる限りの努力はしているが、まだまだ十分とは言えない。	○	個々の職員の意見、考えを聞き入れ、向上心を持って働けるよう努めていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の方から要望を聞きだすことは困難であるが、面接を数回繰り返し、言動・仕草等からくみ取り、また、家族等から生活歴、ライフスタイル等入手し、納得し、安心して利用していただけるよう努力している。		継続。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに、本人・家族との面接を数回繰り返し、納得したうえで利用していただけるよう努めている。		継続。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の一番必要としている物は何かを見極め、家族の要望を基に、できる限りの対応に努めている。		継続。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安を取り除くため、入居前よりホームへの訪問をしていただき、他の利用者やスタッフと会話し、少しでも馴染みの関係ができるよう取り組んでいる。	○	本人の生活暦・在宅生活等のスタイルをなるべく崩さず、施設でも継続できるよう、入居前の面接では情報収集に力を入れていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できる限りコミュニケーションを図り、支えあう関係を築けるよう努めているが、時折業務に追われ、一方的な関係になっている。	○	何事においても利用者の自己決定を第一に考え、日々の生活に取り入れ、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないような関係を築きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常の状況を報告し、家族からの要望や気がかりなことを引き出す働きかけをして、得た情報を職員間で共有している。また、家族が任せきりにならないよう、定期的に手紙で報告し、必要に応じて家族に働きかけてもらっている。		継続。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	対応について、定期的に職員間で話し合いし、より良い関係が築けるよう努めている。		できる限り家族との繋がりを持続していくために、手紙や電話などで、面会の機会を多く取っていただけるよう支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、近くを通った際に立ち寄りたり、馴染みの人からの面会を働きかけ、継続してもらっている。		継続。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をしたり、孤立せず交わえる機会を作ったり、世話好きな利用者からの働きかけを見守っている。		継続。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的に連絡・相談を行い、継続的な関わりを持てるよう努めている。		継続。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方から要望を聞きだすことは困難であるが、日常生活の中での言動・行動等からくみ取り、また、家族等からも聞き出し、意見を出し合っている。	○	できる限り要望、意向にそった対応はしているが、全職員が同じ対応ができるよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等と馴染みの関係を築きながら、情報を入手し、活かすよう努めている。		継続。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り・カンファレンス等で現状を把握するよう努めているが、不十分である。		継続。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにて情報の収集、選択をしている。現状に解決できない課題に関しては、面接時、家族に昔の生活歴や性格を再度聞きながら、アプローチのヒントにし、計画を作っている。	○	日々の生活の中から、本人のできること、できないことを見極め、できないことは手伝い、できることはより生きがいを見い出せるよう支援していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回見直しを行い、状態変化時や認定更新時には再アセスメントし、カンファレンスを開き、その都度介護計画の見直しを行っている。	○	入所より年月がたったので、再度(生活歴・職歴)本人が生きて来られたエピソード等の情報収集をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、毎日の生活状況・健康状態・排泄・食事・水分摂取等の状況を記録して、職員全員が情報を共有している。		継続。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者個々に各担当者を決め、本人・家族の要望を聞き出し、取り入れているが、まだまだ十分とは言えない。	○	できる限り要望を取り入れ、生活していける場を提供していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が住み慣れた地域で、安心して日常生活が送れるよう、地域関係者・保育園・消防署・ボランティア等の協力が得られている。	○	引き続き、地域関係者との協働を得ていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他施設のケアマネジャーとの情報交換を行っている。		継続。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	十分ではないが、必要時には、地域包括支援センターとの連携を図っている。	○	今後も地域包括支援センターと連携を取り、協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意を得たうえで、受診時及び緊急時の対応も含めて、提携医療機関と相談できる体制を取っている。		本人・家族が希望する医療機関などの受診の場合は、受診前の情報提供をすると共に、受診後の指示や説明の伝達を行う。また、施設への訪問受診(歯科)などの支援も行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、認知症の専門医の受診を実施している。		継続。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携に基づき、顔馴染みの看護師に定期的な訪問をもらい、日々の健康管理に努めている。		顔馴染みの看護師の訪問により、利用者も安心して相談できているため、引き続き継続できるよう支援していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時より、病院関係者、本人・家族と話し合い、情報交換し、必要な支援を行っている。		継続。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化に応じて、関係者との話し合いをくり返し、対応方針について共有が図れるよう努めている。		家族と職員との会議、医師との話し合いを含め、本人、家族の意向を確認しながら、できる限りの対応に努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要に応じて、カンファレンス・家族ミーティングを開き、今後の対応について検討している。		継続。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対して、本人の生活習慣・好み・状況・ケアの仕方等、十分な情報提供をしている。		転居後は、相手先より問い合わせがあった場合等も、同様に提供している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>職員は、一人ひとりに対してさりげない言葉やその人の人格を尊重し、笑顔でケアし、なおかつ、個人のプライバシー確保についても常に心がけている。</p>		<p>常に利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、その方に適した声かけを心がけ、プライバシー確保に努めている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>日々の生活の中で、喜怒哀楽が出せるような雰囲気作り、または、個々の意見を取り組めるように働きかけている。</p>		<p>散歩に行ったり、買い物に出かけたり、何がしたいか、してもらいたいかを問いかけるよう働きかけている。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>「自立支援」の立場で、一人ひとりのできること、できそうなことの見極めを各職員が把握しており、その人の残された力を発揮できるような支援をしているが、全体を通して見るとまだ十分とは言えない。</p>	○	<p>各職員が利用者の生活リズムを把握し、その人に合った生活の場を提供し、充実した生活を送っていただけるよう努力していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>本人・家族の意向や好みに応じて、髪型や服装などの身だしなみやおしゃれを個別に支援していく。</p>		<p>継続。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>職員は利用者と共に楽しみながら食事をし、ペースに合わせたさりげない食事介助、声かけ、見守りを行っている。また、身体面での重度化により、負担の少ない簡単な作業を働きかけている。</p>		<p>利用者に合った支援を見つけ出し、楽しみのある食卓作りに心がけていきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>毎日の買い物、また、外出時に一人ひとりの意向を聞きだし、嗜好品を楽しむことができるよう支援している。また、好みによっては利用者間で分け合っている。</p>		<p>継続。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮し、周囲に分からないように、さりげない声かけ、誘導により対応している。		継続。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣に合わせ、入浴希望日にできる限り実施したり、汚染時には常に清潔を保つため、スムーズな入浴を心がけている。	○	拒否等がある場合には、無理強いせず、気分転換を図り、早めの清潔保持に努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、一日の生活リズムを確保している。		継続。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに役割分担を持っていただき、暮らしの中で楽しみや喜びを味わって生活していただけるよう支援している。		ホームでの作品作りや趣味の園芸、洗濯、片づけ、本読み、カラオケ等を無理なく楽しんでいただけるような場面作りに心がけている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望があれば、家族と相談のうえ、利用者自身で小遣いの管理をしてもらい、買い物希望時には、職員付き添いのもと出かけている。	○	家族から金銭を預かった利用者については出納を記録し、管理者の確認後、領収書を添付し、家族に報告をしている。ホームには、出納記録をコピーして保管している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、できるだけ多くの利用者に外出の機会を取っていただけるよう支援している。		時には家族の協力を得て、利用者との外出、食事等の機会を持っていただいている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員付き添いのもと、四季折々の自然に親しむよう心がけている。		継続。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には手紙の返信を書きいただいたり、筆記のできない方などは電話を利用させていただいている。		継続。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう配慮している。		訪問時には、ゆっくりくつろいでいただけるようお茶を準備したり、職員から声をかけるようにしている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を発足しており、定期的に職員間で勉強会を行ったり、研修の受講をしている。また、この内容を記録し、職員全員が周知できるようにしている。		委員会開催後、研修後については、月一回の全体カンファレンスにて報告し、未参加者についても口頭、記録等にて伝達、職員全員が理解し、確認印を押している。確認印については、管理者がその都度確認している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々の生活においては、可能な限り取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮し、常に所在確認を行うと共に、さりげない支援や言葉遣いで、見守っている。		継続。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や薬は保管場所を明確にし、安全に管理しているが、洗剤等は一部利用者の手の届く場所に置いている物がある。	○	利用者の周辺症状を考え、注意の必要な物品について、安全の確保から危険がないかを点検し、見守りの継続と共に、職員間で安全管理の意識統一を図りたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	委員会を発足しており、定期的に職員間で勉強会を行ったり、研修の受講をしている。また、この内容を記録し、職員全員が周知できるようにしている。		委員会開催後、研修後については、月一回の全体カンファレンスにて報告し、未参加者についても口頭、記録等にて伝達し、職員全員が理解し、確認印を押している。確認印については、管理者がその都度確認している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員が緊急時に対応できるように、定期的に応急手当の講習や訓練を実施している。		さらに、全職員が慌てず、初期対応ができるよう、定期的な職員研修を継続していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員間で災害時の具体的な避難策について検討し、定期的に訓練を実施しているが、地域の人々や他の事業所の協力のもと、一緒に訓練を行えてない。	○	地域の人々や他の事業所との災害時対策についての話し合いの場を持ち、理解を求め、一緒に訓練できるよう取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃から、利用者について家族と連携を図っており、リスクの対応策について、その都度話し合いの場を設けている。また、このような場面が生じた場合は、経過について記録するようにしている。		継続。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタル、状態観察を行い、異常の時の早期発見及び医療機関への報告を行い、記録に残している。		継続。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に貼付している服薬の目的、副作用などの指示を常に確認し、必要時は看護師に相談しながら支援している。また、定期的に症状について医療機関に報告している。		継続。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、食事形態を工夫したり、飲み物などにて対応し、できるだけ自然排便を促せるよう工夫している。		継続。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの見守り、支援により、口腔内の清潔保持に努めている。		継続。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業者の栄養士の協力を得て、食事のカロリー、バランスは確保できている。また、食事は個人記録に記載し、水分量については、不足気味になれば記録し、十分な水分摂取できるよう支援し、努めている。		継続。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	委員会を発足しており、定期的に職員間で勉強会を行ったり、研修の受講をしている。また、この内容を記録し、職員全員が周知できるようにしている。		委員会開催後、研修後については、月一回の全体カンファレンスにて報告し、未参加者についても口頭、記録等にて伝達し、職員全員が理解し、確認印を押している。確認印については、管理者がその都度確認している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を提供するために、買い物には、できる限り利用者と毎日スーパーへ買いに行ったり、調理用具の消毒、調理前の手洗いを実施している。		継続。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせないよう配慮しており、グループホームは2階にユニット別の玄関があり、季節ごとに花などを置き、家庭的な雰囲気を作っている。	○	建物1階の玄関は併設事業所との共有のため、入り口にはグループホーム用の案内を出し、常の訪問者の方には使用していただいているが、初めての方には、もう少しの工夫が必要と思う。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールで過ごしていただく時は、自由に、ソファ、食卓、居間などを使用してもらい、自由に過ごせる場所や他の方と談笑する場がある。また、各部屋には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品などを使用していただき、その人らしい生活ができるよう配慮している。		継続。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の場所には、利用者が一人になれる場所や、ホール内が広いので自由に移動してもらったり、天気の良い日等には自由にテラスで日光浴などができる場所がある。		継続。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品などを使用していただき、安心して過ごせる場所となっている。		居心地良く過ごしていただけるような雰囲気作りや、プライバシーを大切に、安心して生活が送れるよう配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール全体が広く、天井も高く作っており、常に温度、湿度計を置いて、温度調整を行っている。また、窓を開ける等して換気をしている。玄関に入っても施設臭やトイレの臭い等が気にならないよう配慮している。		継続。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全で自立した生活が送れるよう、廊下、トイレ、浴室などに手すりをつけたり、浴室には滑り止めマットを敷いている。また、車椅子対応トイレ、一人用トイレを設置している。居室のベッドの高さを、利用者に適した高さにする等の工夫を行っている。		継続。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個人に適した補助器具や食器などを使用している。私物には名前の明記をして、各自が分かるように工夫している。居室前には利用者の好みの絵と表札を貼り、場所を間違えないよう工夫している。		継続。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に出入りができるベランダがあり、日光浴、談話、洗濯物、茶会などをしていただいたり、家庭菜園では職員と野菜作りなどを行い、季節感や収穫の喜びを味わっていただけるよう工夫している。		継続。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者支援にあたり、ユニット間で目標を掲げ、また、個人目標を各自がつくり、それに向けて日々向上に努めています。
- ・家族面会時には、必ず本人・家族の要望、意見を聞くようにし、より良い関係を築けるよう努めています。
- ・毎月の季節に合ったイベント（花見・花火・すいか割り等）の様子やホームでの暮らしぶりを2～3か月単位で廊下に写真で掲載していますが、さらに1年間の様子を個人のアルバムとして1冊にまとめ、年末に家族に手渡して好評を得ています。